

## 巻 頭 言

校 長 川原 裕明

令和2年度は新型コロナウイルス感染症への対応で明け暮れました。目に見えないウイルスとの戦いは、これまで当然であると考えてきた生活を一変させ、多くの我慢を強いられるものとなりました。そのような中、職員の日頃の諸教育活動における研究・研修の記録・成果の報告書である「研究紀要第40号」を発刊する運びとなったことは、コロナ禍においても、各職員が生徒の学力向上などに向けて懸命に取り組んできた結果であると誇らしく思います。

ウィズコロナ、ポストコロナにおける教育の在り方については様々な議論がなされていますが、アクティブ・ラーニング(以下 AL)研究は疑いなくその中心になるものであると思います。さらに、直接対面で学ぶ事ができない状況において「遠隔・オンライン教育」を実現することや、ICT を活用した学習についても、このコロナ禍を機にその進展が期待されていくものと考えています。ただ、ICT を活用した学習については機器や環境が整備されればそれで済む話ではありません。先生から直接学び、AL を意識して生徒自らが主体的に学び、そして ICT を活用して学ぶことが調和的に「個別最適化」されることで初めて教育の質の向上に繋がるのではないのでしょうか。

また、同時に職員の負担をこれ以上大きくしない工夫も求められます。ICT を活用した新しい指導法や教材開発の研究について、全てを教職員の手で行っていく必要はないと思います。NPO や各種機関で作られた様々な資源を複合的に活用していくという考えをもとに上手にコーディネートしたり、それぞれの学校が研究・作成したものを共有化していくことも積極的に推進していくべきでしょう。

本紀要では3年間の AL 研究を基盤として、今年度の各教科における実践例などを中心に掲載しています。

本校はこれからも、授業改善に向け積極的に取り組んでまいります。今後とも皆様方からご指導を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、日々多忙な校務の中で、原稿執筆や編集に尽力された先生方のご労苦に対して心から謝意を表します。